

2025年12月期第1四半期決算

補足説明資料



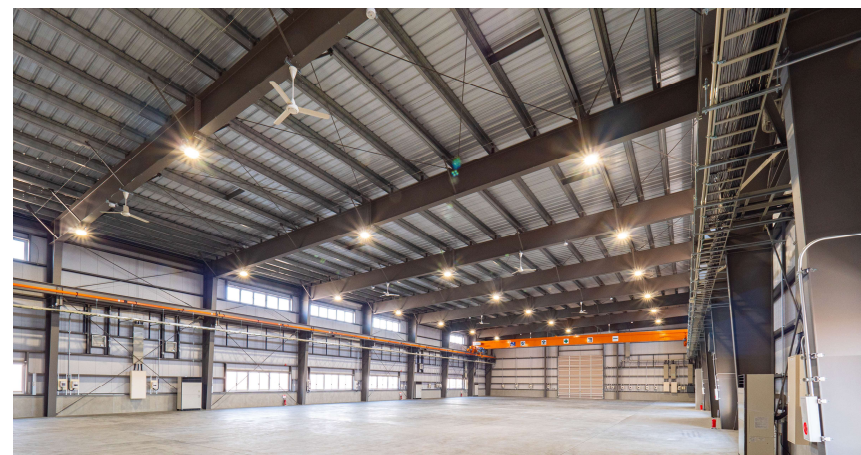
株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しております。
- ✓ 2021年12月期以前の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- ✓ 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。これに伴い、2022年12月期 第2四半期から、「防災用貯給水タンク」の業績を「防災・工事事業」から「継手事業」にセグメント変更しております。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

1. 2025年12月期 第1四半期決算概要

2. 2025年12月期 業績予想

(補足資料)テクノフレックスの概要



▲ 半導体工場向けに真空配管のプレハブ加工を行っている
当社グループの北海道工場(竣工時)

1. 2025年12月期 第1四半期決算概要

2025年12月期 第1四半期 連結業績 1 前年同期比・予想比



◆ 連結業績(前年同期比・予想比)

単位: 百万円

	連結業績		前年同期比 (伸長率)		業績予想比				
	2024_1Q	2025_1Q			期初・ 修正後	2Q累計(中間期)		通期	
						計画値	進捗率	計画値	進捗率
連結売上高	4,980	6,060	+1,079	+21.7%	期初予想	11,800	51.4%	23,000	26.3%
					修正後予想	11,900	50.9%		
連結営業利益	486	990	+503	+103.4%	期初予想	1,100	90.0%	2,400	41.3%
					修正後予想	1,450	68.3%		
親会社株主に帰属する 当期/中間/四半期 純利益	289	707	+417	+144.1%	期初予想	700	101.0%	1,650	42.9%
					修正後予想	1,000	70.7%		

- ✓ 当期第1四半期は、半導体関連の市場が国内・海外ともに好調であり、真空機器の製造・販売や半導体工場向け真空配管のプレハブ加工などの事業で、予想を上回る増益となりました。
- ✓ 当期第2四半期累計期間(中間期)の連結業績予想につきましては、上記の増益により、2025年2月10日公表の親会社株主に帰属する中間純利益の予想(期初予想)を、当期第1四半期の親会社株主に帰属する四半期純利益が上回る見込みとなり、2025年4月24日付で上方修正しております(修正後予想)。
- ✓ 通期の業績予想につきましては、米国の関税や為替の動向が先行き不透明であり、当社グループの業績への影響を算定することが困難なことから、期初の業績予想を据え置いておりますが、今後の業績推移により修正が必要となった場合には、適時に開示して参ります。

● 連結売上高

- ✓ 国内外の半導体関連事業を中心に売上を伸ばしました。

当1Qは、半導体関連などの真空機器・真空配管の市場が、国内・海外ともに好調でした。

【国内の半導体関連市場】

複数の大型設備投資が同時進行し、真空機器の製造・販売(継手事業)と、真空配管のプレハブ加工や設置工事(防災・工事事業)が売上を伸ばしました。

- 北海道の先端半導体工場では、第1期工事が、本年4月の操業に向けて最初のピークを迎えました。
- 半導体メモリーのメーカーでは、三重県の工場で真空配管工事が大きく進捗したことと、岩手県の工場で真空配管工事が始まったことが、売上増加につながりました。

【海外の半導体関連市場】

- 海外市場は、前期からの好調を維持し、半導体関連などの真空機器を中心に売上を伸ばしました。

● 連結営業利益

- ✓ 半導体関連市場の好調から、付加価値の高い真空機器や真空配管のプレハブ加工などが増収となり、連結営業利益が増益となりました。
- ✓ 赤字が続いていた自動車・ロボット事業は、ロボットメーカーの在庫調整が一巡し、黒字転換しました。

● 親会社株主に帰属する中間純利益

- ✓ 連結営業利益が予想以上のペースで増加し、期初に予想した親会社株主に帰属する中間純利益を、当1Qの親会社株主に帰属する四半期純利益が上回ることとなり、当期第2四半期累計期間(中間期)の連結業績予想を上方修正いたしました。

◆ 海外市場

当期1Qにおける半導体関連等の主な真空機器販売先

(A社) 水素エネルギー関連メーカー(米国)

(B社) 半導体製造装置メーカー(中国)

(C社) 半導体検査装置メーカー(米国企業のマレーシア工場)

◆ 国内市場

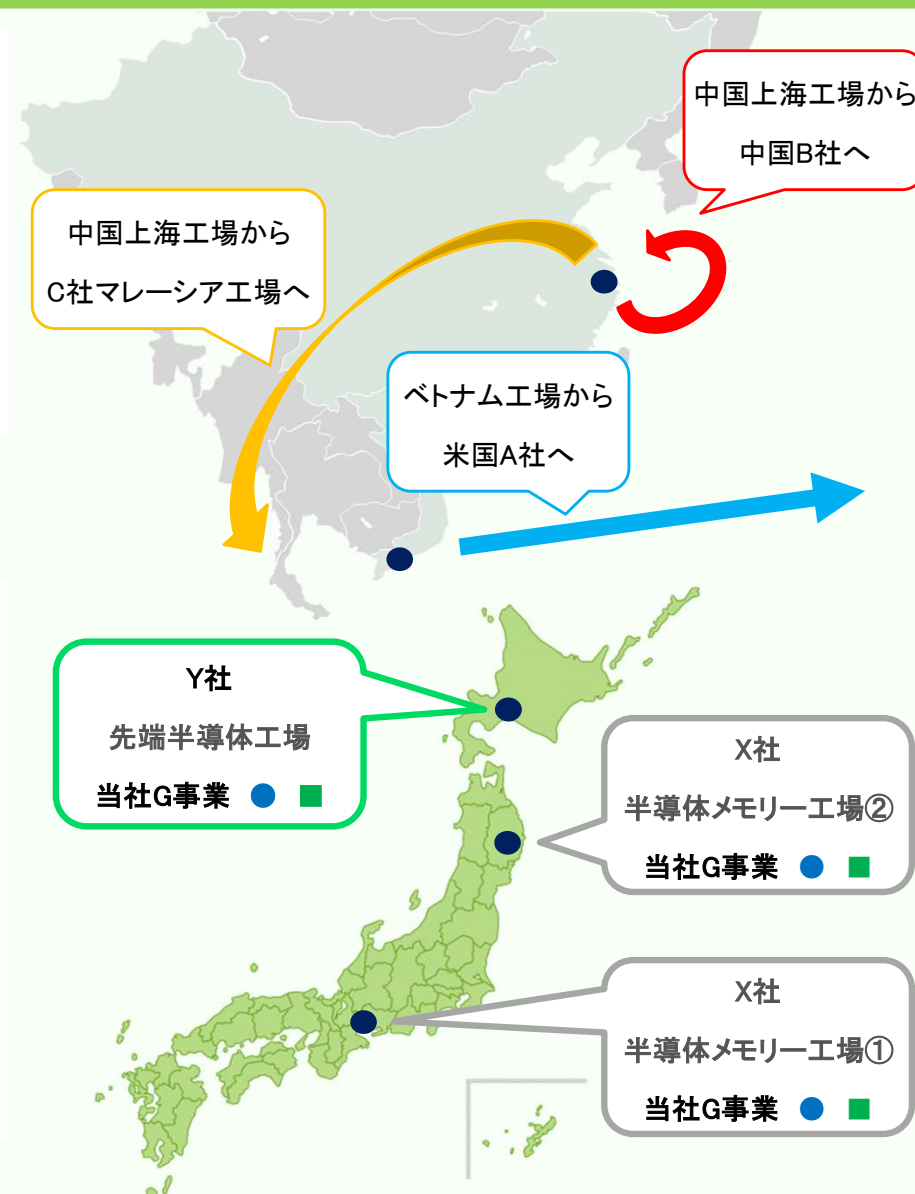
当期1Qに大規模な設備投資が実施された主な半導体工場

(X社) 半導体メモリー工場(①三重県・②岩手県)

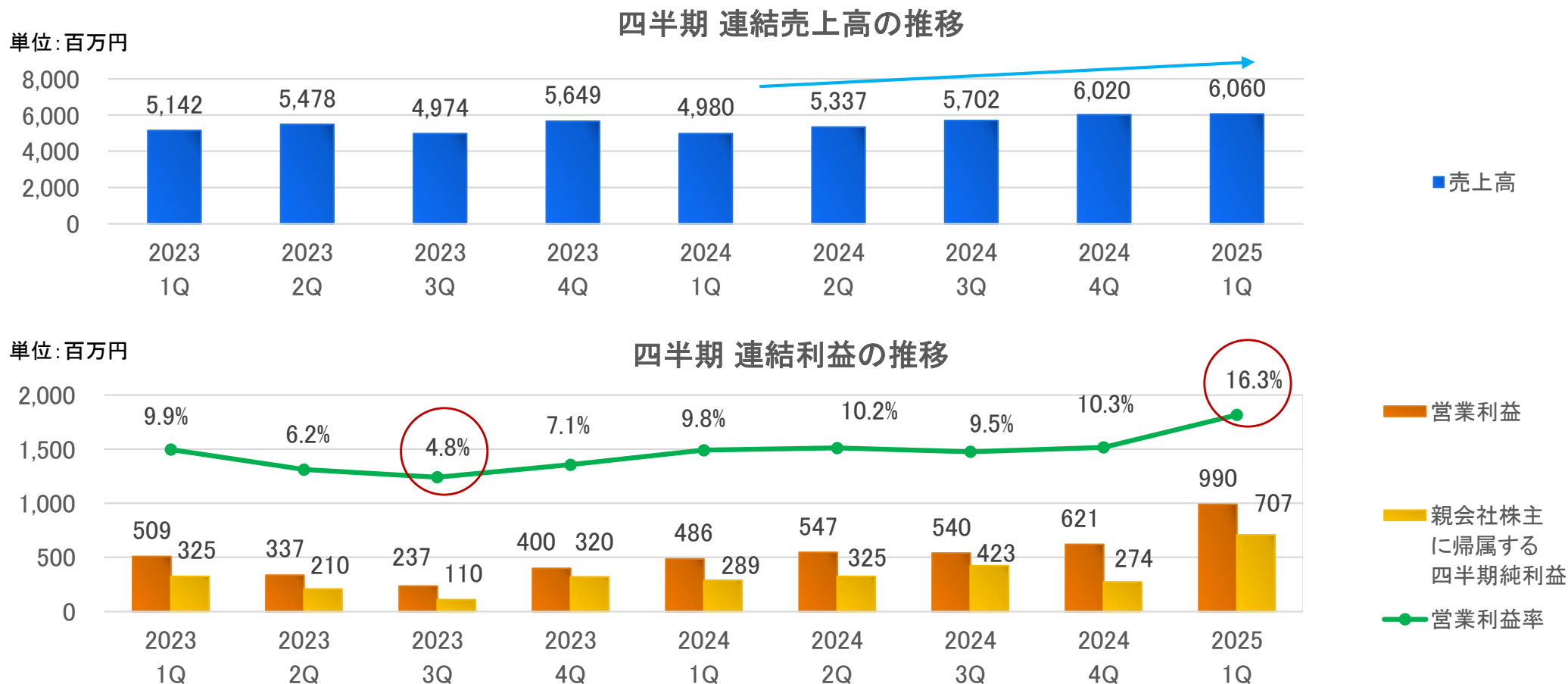
(Y社) 先端半導体工場(北海道)

上記設備投資に関連した当社グループの事業

- 真空機器の製造・販売(継手事業)
- 真空配管のプレハブ加工・設置工事(防災・工事事業)

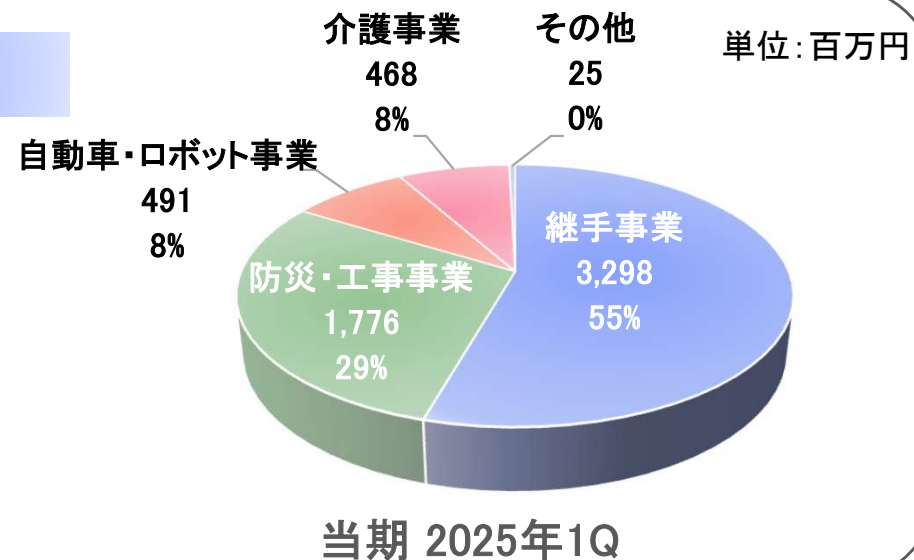
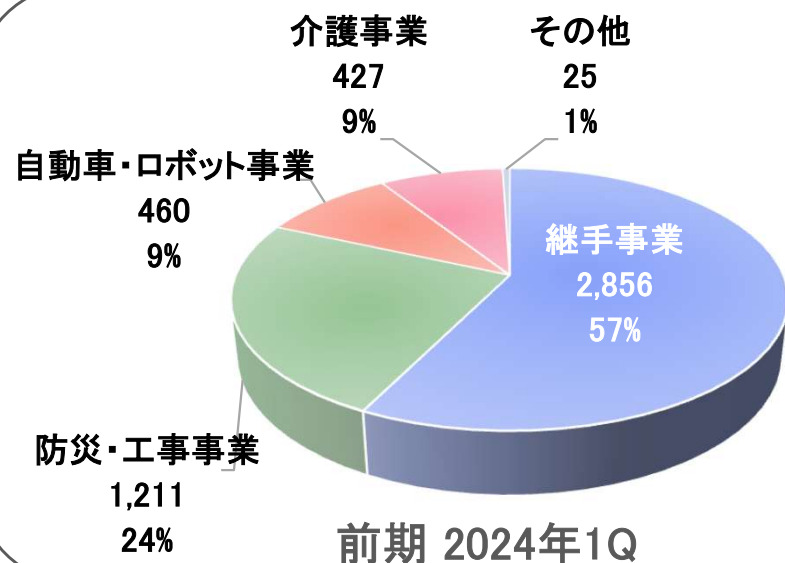


2025年12月期 第1四半期 連結業績 4 四半期業績の推移

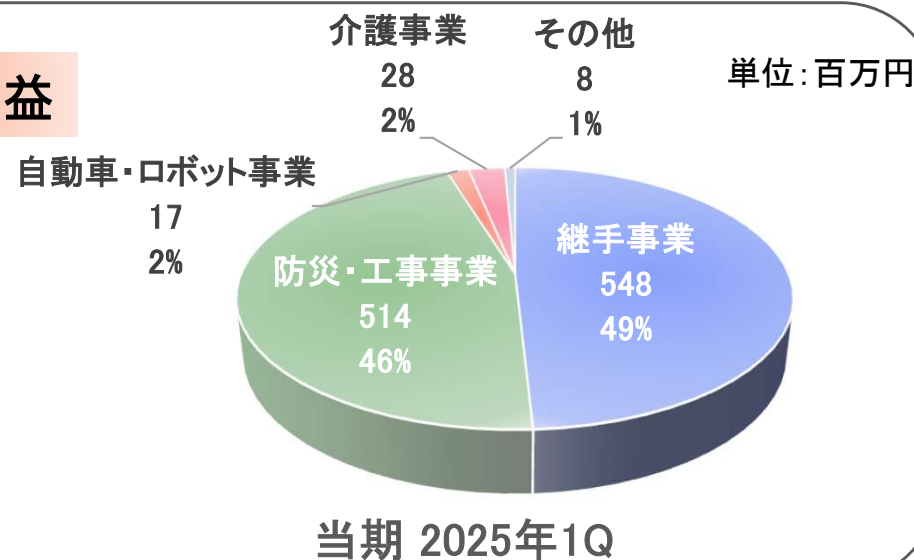
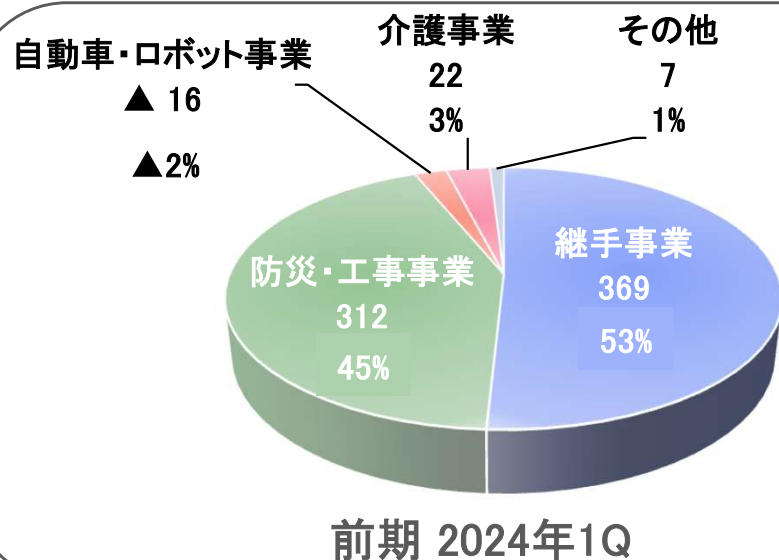


- 四半期業績は、半導体工場の設備投資や再開発事業等の大型案件を計上するタイミングで、大きく変動します。
- 半導体関連の事業が好調であり、連結売上高は、4四半期連続の増加となりました。
- 営業利益率は、急激な円安・物価高騰などから4.8%まで低下していましたが、半導体関連などの高付加価値事業で利益を伸ばし、16.3%まで回復しました。

売上高



セグメント利益

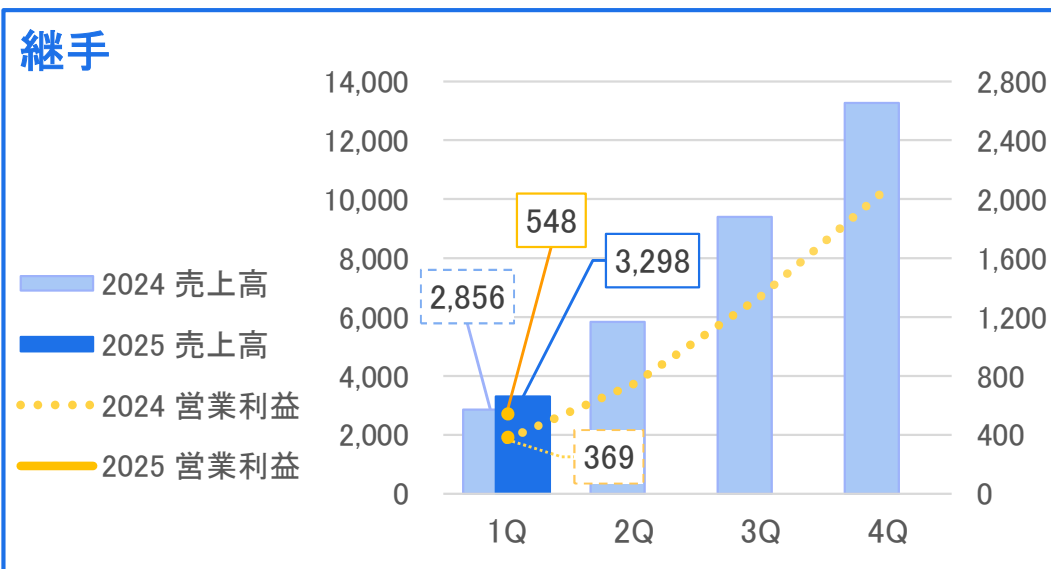


2025年12月期 第1四半期 セグメント業績 1 前期比(累計)

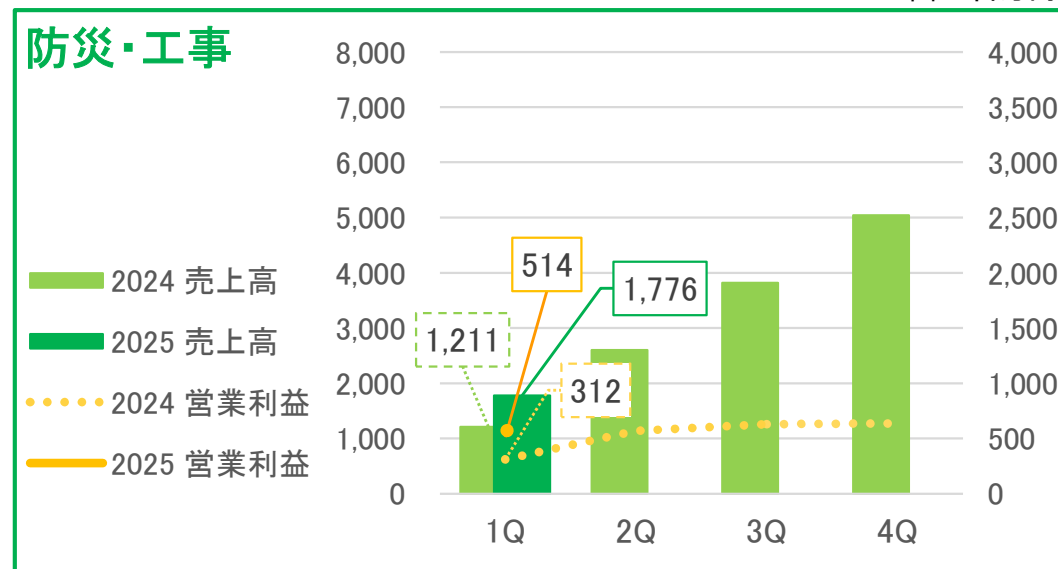


単位: 百万円

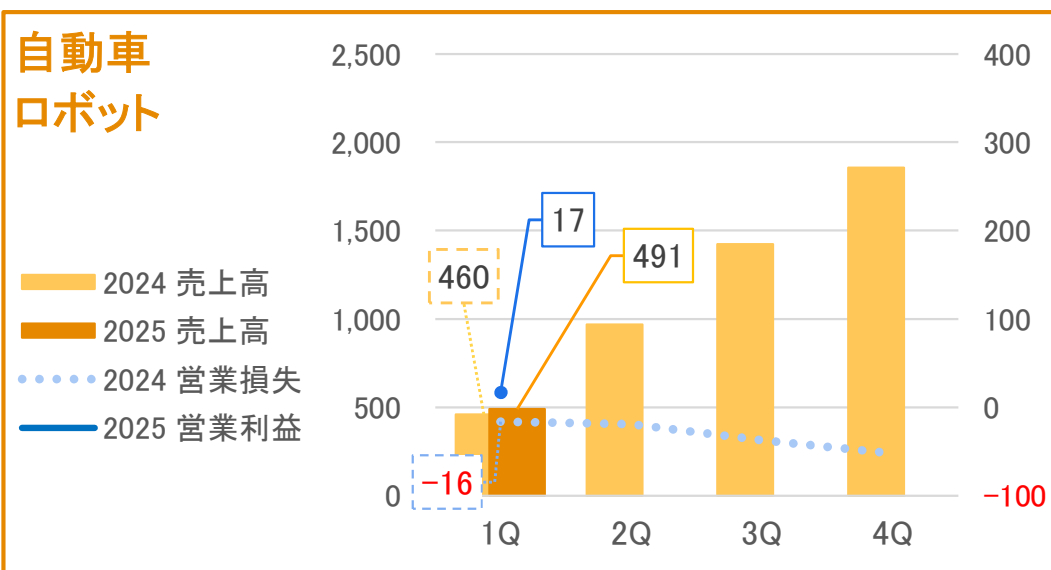
継手



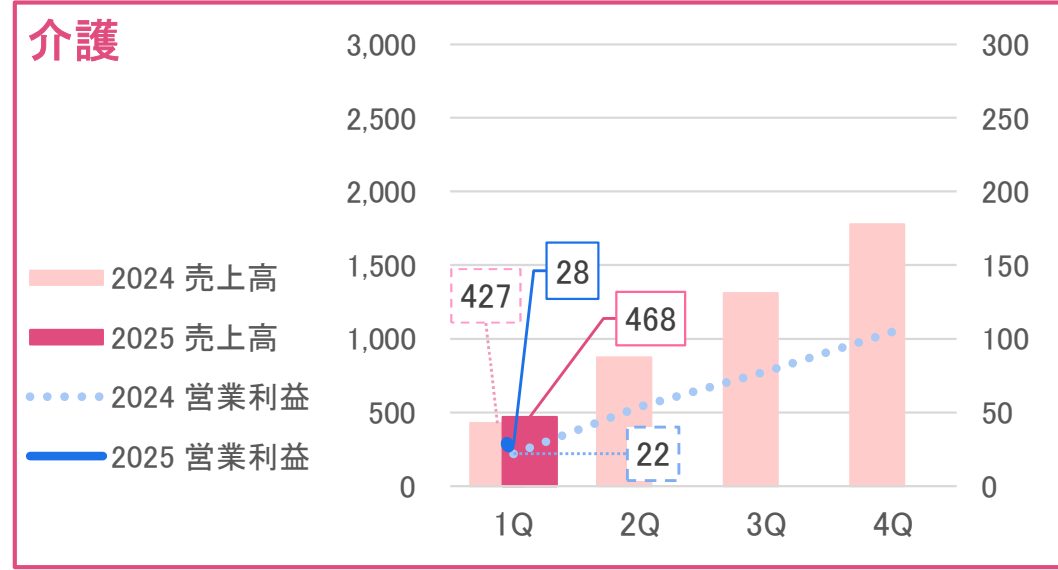
防災・工事



自動車 ロボット



介護



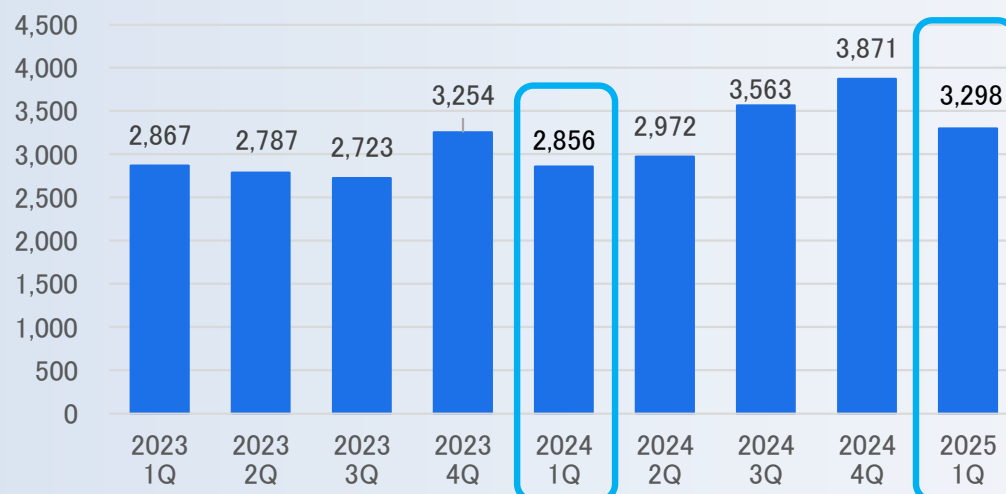
- 全ての事業セグメントが、増収増益となりました。
- 前期を通して赤字であった自動車・ロボット事業が、黒字転換しました。

◆ 継手事業

売上高の推移

単位: 百万円

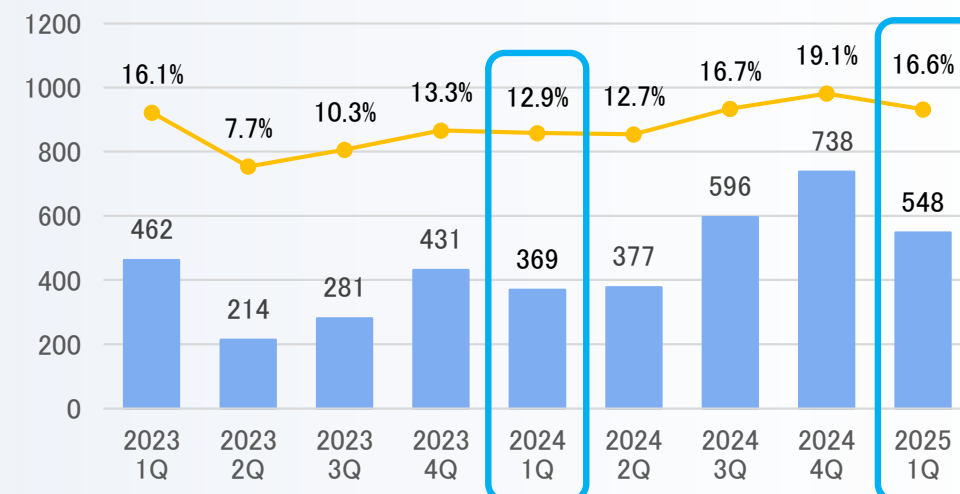
■ 売上高



営業利益の推移

単位: 百万円

■ 営業利益 ● 営業利益率



■ 売上高 3,298百万円 (前年同期比 +442百万円、+15.5%)

■ 営業利益 548百万円 (前年同期比 +178百万円、+48.2%)

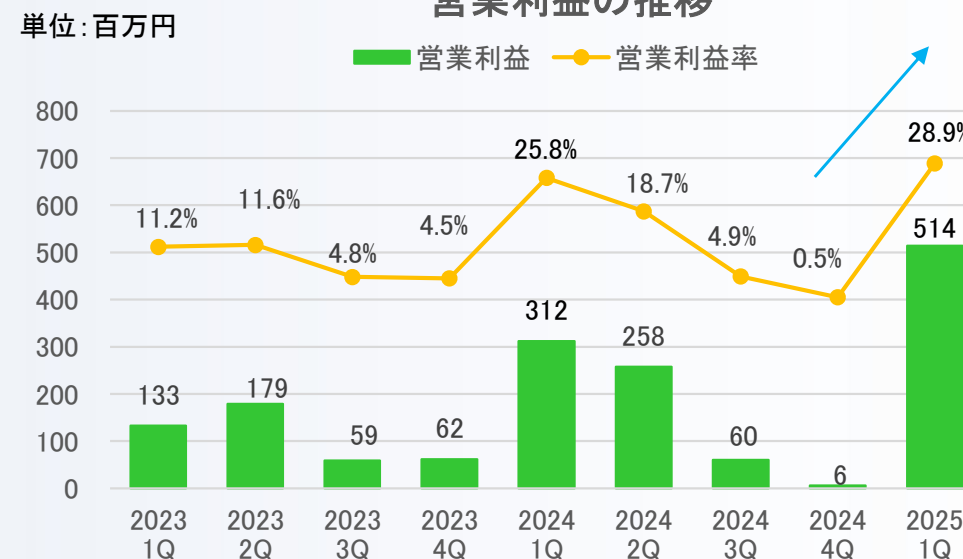
- 半導体関連などの真空機器が国内・海外ともに好調であり、継手事業の収益に貢献しました。
- 前期4Qに海外の真空機器と国内のフレキシブル継手が好調であった反動から、当期1Qの収益が前期4Q比で減少しましたが、引き続き市場環境は良好であり、前年同期比で増収増益となりました。
- 国内の半導体関連では、北海道の先端半導体工場と、三重県と岩手県の半導体メモリー工場の設備投資案件が同時進行となり、真空機器が売上を伸ばしました。
- フレキシブル継手と伸縮管継手も、売上を伸ばしました。

◆ 防災・工事事業

売上高の推移



営業利益の推移



■ 売上高 1,776百万円 (前年同期比 +564百万円、+46.6%)

■ 営業利益 514百万円 (前年同期比 +201百万円、+64.3%)

➤ 真空配管のプレハブ加工・設置工事

- ✓ 北海道の先端半導体工場と、三重県と岩手県の半導体メモリー工場の設備投資案件が同時進行となり、売上が増加しました。
- ✓ 昨年、苫小牧市に当社が建設した北海道工場が、千歳市の先端半導体工場向けの真空配管加工で効果を発揮し、利益の増加に貢献しました。

➤ 消防設備工事

- ✓ 大型工事案件で工期変更が発生し、減収となりました。

◆ 自動車・ロボット事業

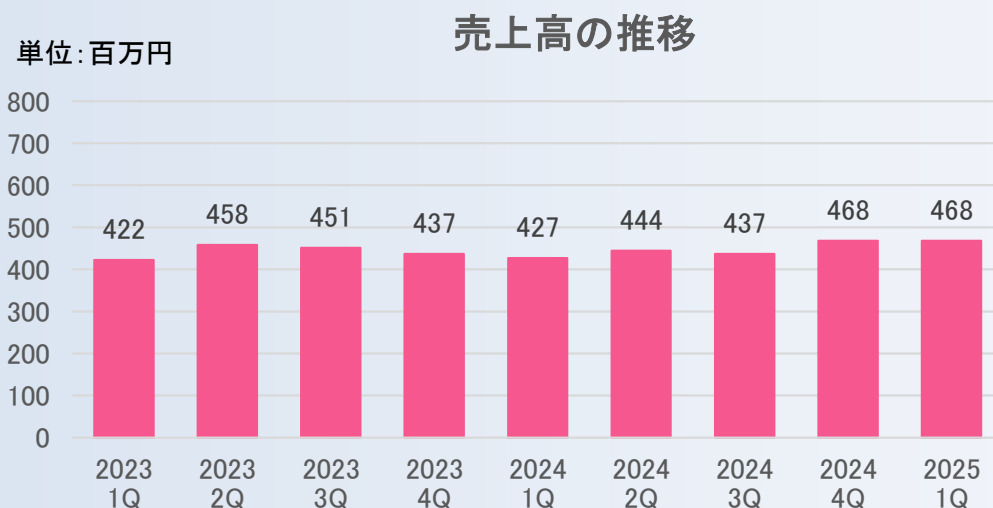


■ 売上高 491百万円 (前年同期比 +31百万円、+6.8%)

■ 営業利益 17百万円 (前期は営業損失 16百万円)

- ロボット分野の大口顧客で在庫調整が一巡したこと、適正利益での販売に努めたことから、赤字が続いていたロボット分野が黒字転換し、自動車・ロボット事業全体で増収・黒字転換となりました。
- 自動車分野は、前年同期並み(微増)でした。

◆ 介護事業



■ 売上高 468百万円（前年同期比 +40百万円、 +9.5%）

■ 営業利益 28百万円（前年同期比 +6百万円、 +27.3%）

- 福祉用具販売の売上が増加し、前年同期比で増収となりました。
- 福祉用具レンタル用資産の減価償却が進んだことによる原価削減などから、増益となりました。

2. 2025年12月期 業績予想

2025年12月期連結業績予想 SUMMARY 1



◆ 連結業績予想

単位: 百万円

	2Q累計(中間期)			通期	
	2024年 業績	2025年 予想		2024年 業績	2025年 予想
連結売上高	10,318	期初予想	11,800 (+14.4%)	22,041	23,000 (+4.3%)
		修正後予想	11,900 (+15.3%)		
連結営業利益	1,034	期初予想	1,100 (+6.4%)	2,196	2,400 (+9.3%)
		修正後予想	1,450 (+40.2%)		
親会社株主に帰属する 中間／当期純利益	615	期初予想	700 (+13.8%)	1,313	1,650 (+25.7%)
		修正後予想	1,000 (+62.6%)		

- ✓ 当期第1四半期は、半導体関連の市場が国内・海外ともに好調であり、真空機器の製造・販売や半導体工場向け真空配管のプレハブ加工などの事業で、予想を上回る増益となりました。
- ✓ 当期第2四半期累計期間(中間期)の連結業績予想につきましては、上記の増益により、2025年2月10日公表の親会社株主に帰属する中間純利益の予想(期初予想)を、当期第1四半期の親会社株主に帰属する四半期純利益が上回る見込みとなり、2025年4月24日付で上方修正しております(修正後予想)。
- ✓ 通期の業績予想につきましては、米国の関税や為替の動向が先行き不透明であり、当社グループの業績への影響を算定することが困難なことから、期初の業績予想を据え置いておりますが、今後の業績推移により修正が必要となった場合には、適時に開示して参ります。

2025年12月期連結業績予想 SUMMARY 2



◆ 2Q累計(中間期)の連結業績予想

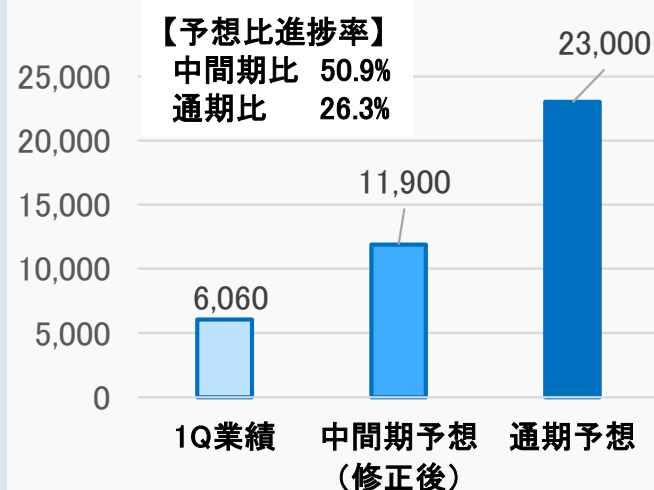
- 当期1Qの増収増益を踏まえ、当期第2四半期累計期間(中間期)の連結業績予想を上方修正しております。
- 当期2Qも国内外の半導体関連事業を中心に、収益を伸ばす見込みです。

◆ 通期の連結業績予想

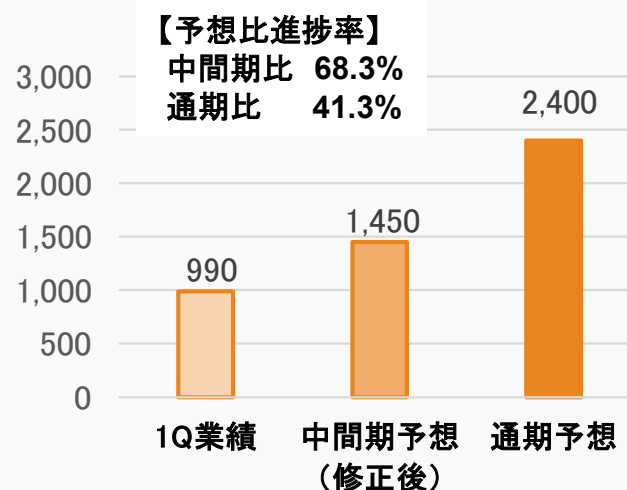
- 現時点で、米国の関税や為替の動向が先行き不透明であり、当社グループの業績への影響を算定することが困難な状況です。
- 当期の後半から来期に掛けて、国内では複数の半導体工場で設備投資が見込まれますが、一部の案件については、現時点で具体的なスケジュールが確認できておりません。
- 以上のことから、通期の連結業績予想は、期初に公表した予想値を据え置いておりますが、今後の業績推移により修正が必要となった場合には、適時に開示して参ります。

単位: 百万円

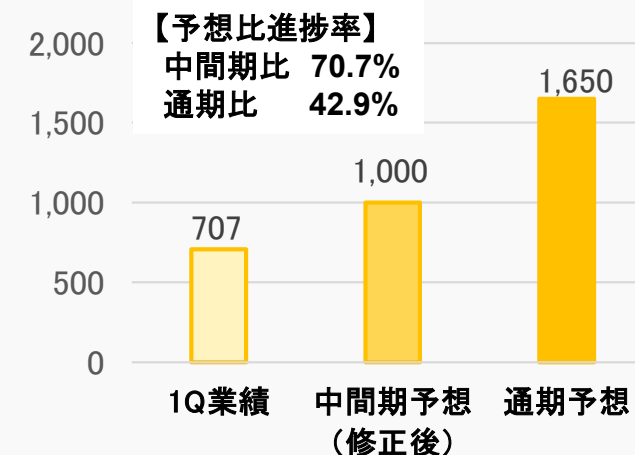
連結売上高



連結営業利益



連親会社株主に帰属する 四半期/中間/当期純利益



◆ 国内の半導体工場における大規模設備投資の見込み

現時点で当期2Q～来期に実施が見込まれる主な設備投資

(X社) 半導体メモリー工場(①三重県・②岩手県)

(Y社) 先端半導体工場(北海道)

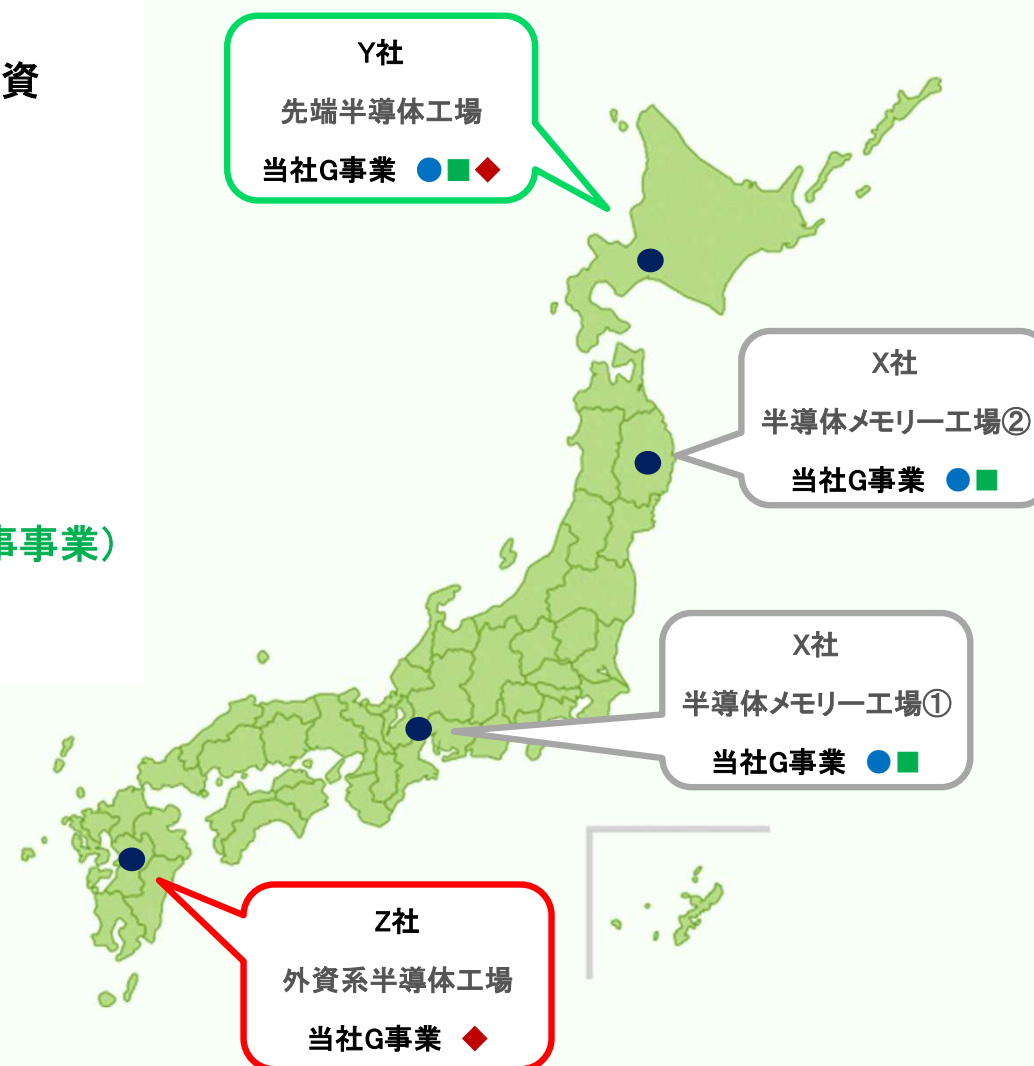
(Z社) 外資系半導体工場(熊本県)

上記設備投資に関連した当社グループの事業

- 真空機器の製造・販売(継手事業)
- 真空配管のプレハブ加工・設置工事(防災・工事事業)
- ◆ 消火設備工事(防災・工事事業)

※ 本項に記載の設備投資案件は、現時点で当社が把握している情報に基づくものであり、今後変更が生じる可能性を含みます。

※ 一部の案件は、具体的なスケジュールを確認できていないことから、当期の業績予想に反映しておりません。

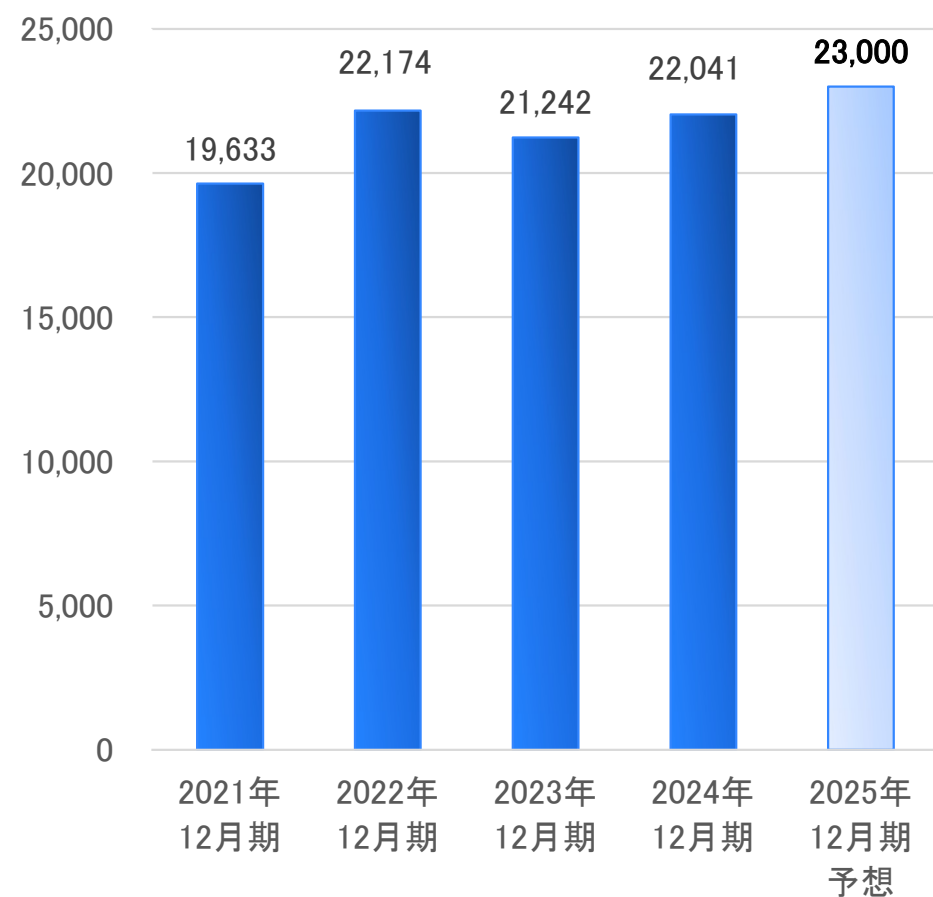


2025年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



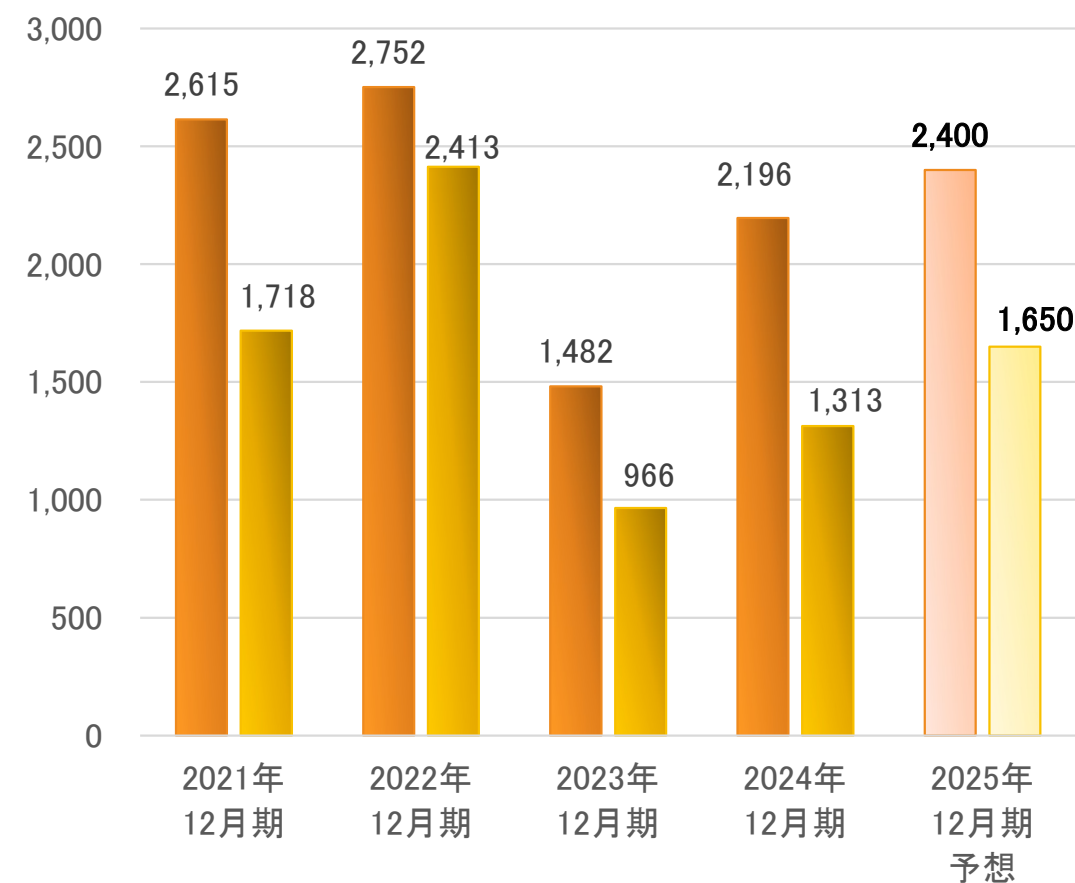
単位:百万円

連結売上高



単位:百万円

連結営業利益 親会社株主に帰属する当期純利益



◆ 継手事業

- 引き続き、国内外の半導体関連を中心に、真空機器が収益を牽引する予想です。

◆ 防災・工事事業

- 真空配管のプレハブ加工・設置工事が、2Qも好調に推移する予想です。

◆ 自動車・ロボット事業

- 低迷していたロボット事業が、当期1Qに黒字転換したことを踏まえ、業績回復を見込んでいます。

◆ 介護事業

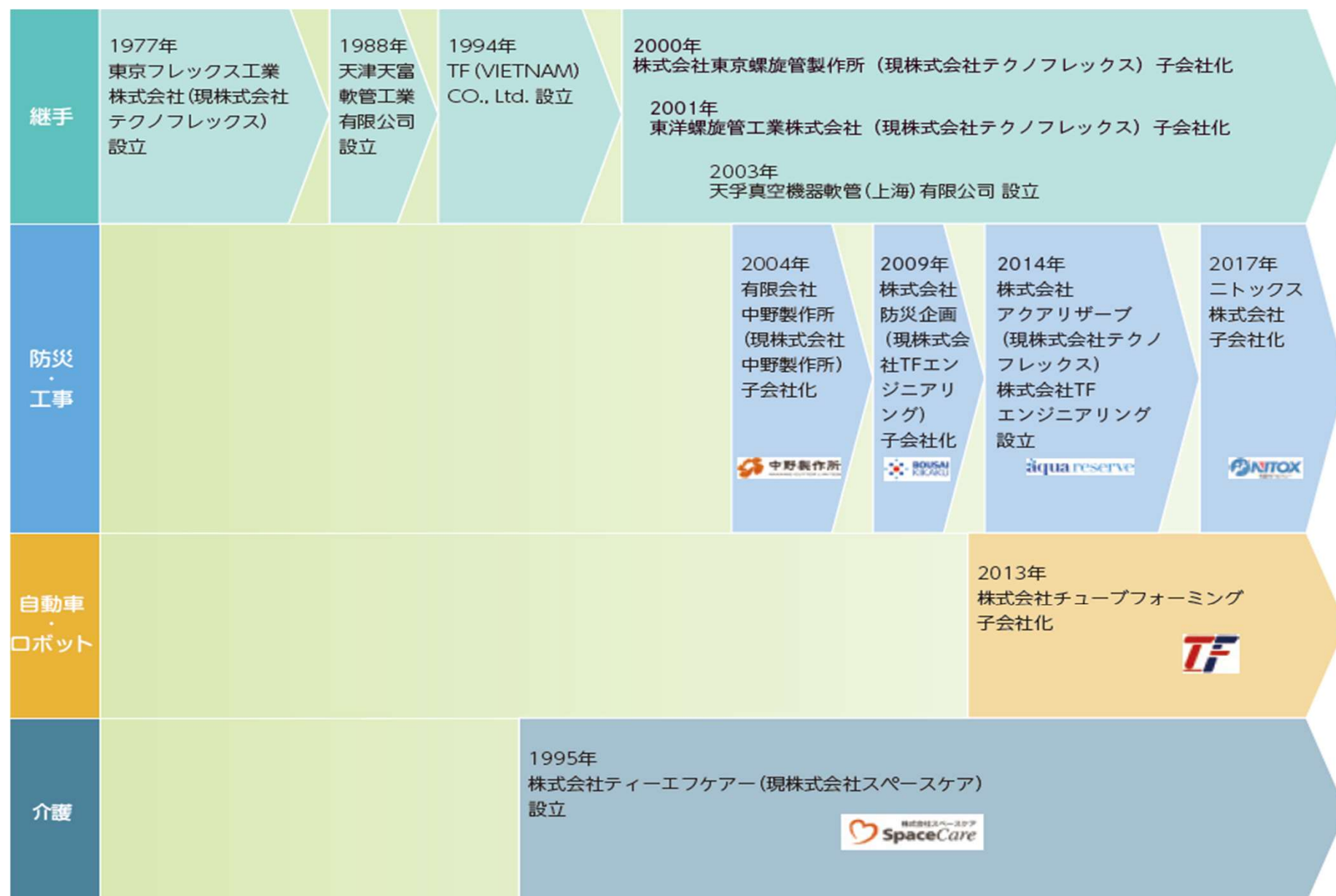
- 利益率が回復傾向にあり、堅調に推移する見込みです。

※ 通期の業績予想につきましては、米国の関税や為替の動向が先行き不透明なこと、国内半導体関連の設備投資予定が現時点で不確定なこと等から、当社グループの業績への影響を算定することが困難であり、期初の業績予想を据え置いております。今後の業績推移により修正が必要となった場合には、適時に開示して参ります。

(15～17ページの説明もご参照ください。)

(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前1丁目5番1号
資本金	10億円(2024年12月31日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:358名(2024年12月31日現在) 連結:1,005名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



- ◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。



※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント



① 継手事業



③ 自動車・ロボット事業



② 防災・工事事業



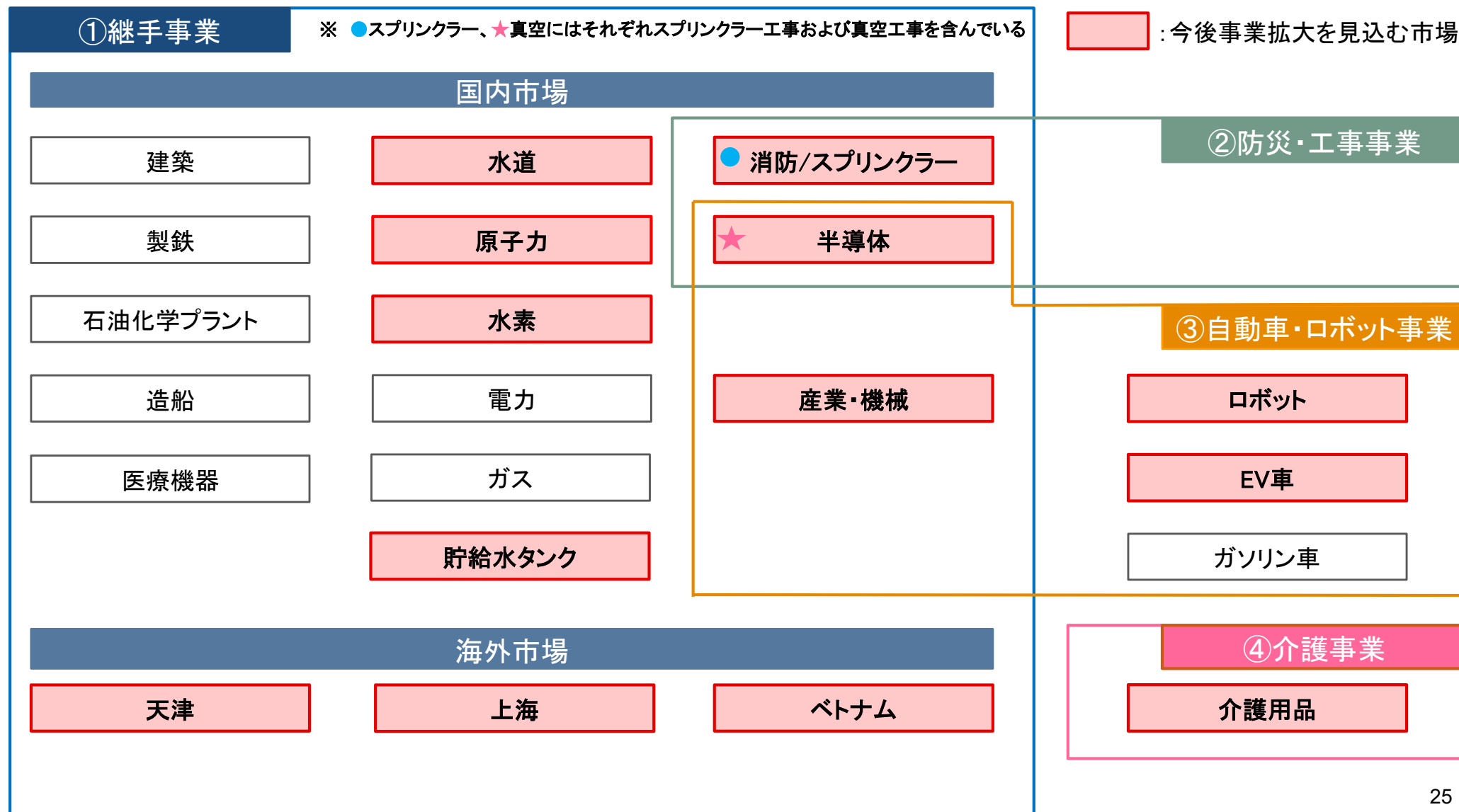
④ 介護事業



マーケットと 4つの事業セグメント



- 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては消防/スプリンクラー、水道、半導体、原子力、水素、貯水タンク、EV車、ロボット、産業・機械、商品販売(介護)、海外市場が挙げられます



テクノフレックス

◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目

- 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
- 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

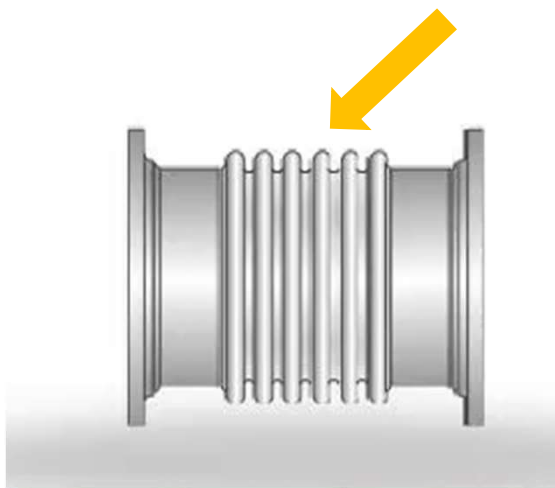
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で
伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の
継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

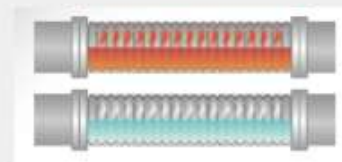
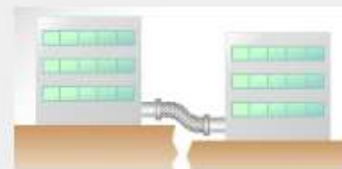


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス



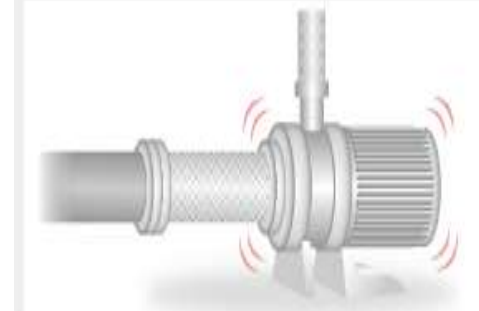
変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



作業効率



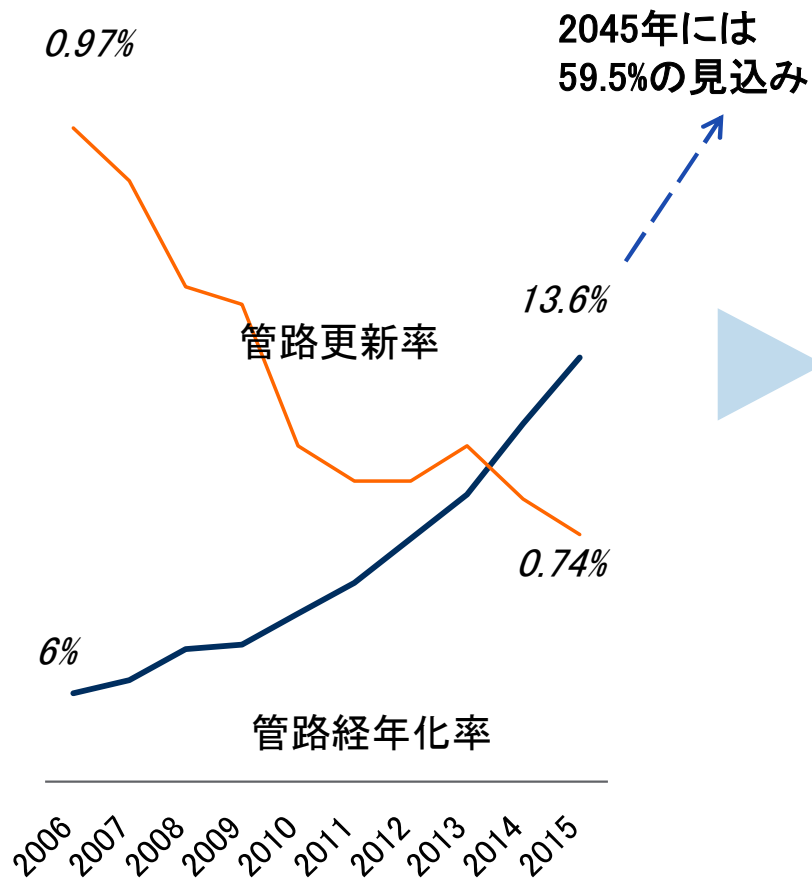
大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手 (SDF工法)



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。



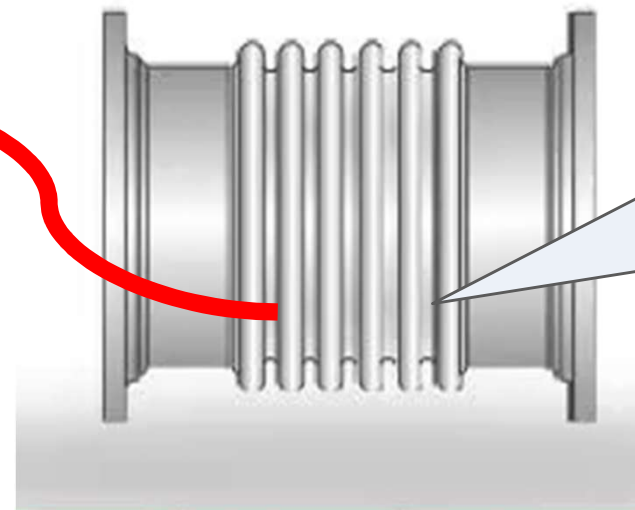
SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)



- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、
伸縮します。
角度を付けることも
できます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)



● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - **真空機器の需要が拡大。**
- ◆ 当社の真空機器は、**半導体・FPD等の製造装置用**、**真空ポンプ用**、**装置間真空配管用**の3つの用途で、使用。
- ◆ 真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ **チラーホース、クライオホース**のマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。

真空機器
の用途

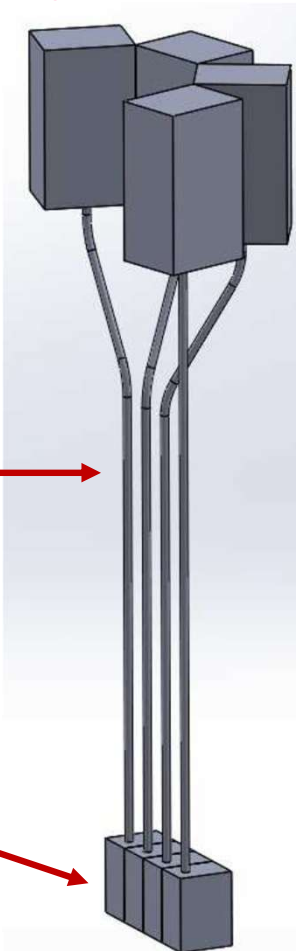
チラーホース
クライオホース

高真空化・極高真空化

半導体・FPD等の
製造装置に設置
装置メーカーへ出荷

装置間の
真空配管に設置
工場の真空配管設置現場へ出荷

真空ポンプに設置
ポンプメーカーへ出荷



防災用貯給水タンク「マルチアクア」

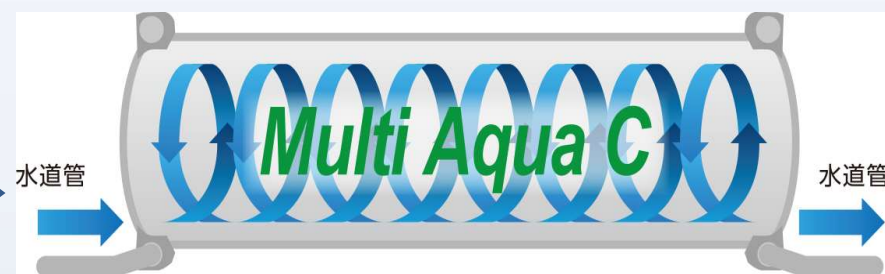
- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け製品「マルチアクアC」。



Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、**配管工事**と**切断装置**の2つの事業。

配管工事

- 消火設備工事
 - ・ スプリンクラー等の消火用配管や設備の設置工事
 - ・ 消火用配管のプレハブ加工
- 真空配管工事
 - ・ 半導体工場等の真空配管の設置工事
 - ・ 真空配管のプレハブ加工



自動切断機

水道管及び電柱の切断装置

- ・ 自走しながら配管や電柱を切断。
- ・ 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (5G商用化、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 足もとでは、鉄の供給不足が懸念材料 ✓ 中長期的には、主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、コロナ禍以降は輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防 スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ メモリーの市場は、増減の波が大きく生じるものの、中長期的な成長が見込まれる ✓ 国内の先端半導体市場に期待
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
	貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
自動車 ロボット	防災・工事	✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加 ✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
	ガソリン車	✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し ✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
	介護	✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み ✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり